

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人富山県文化振興財団	
施 設 名	富山県利賀芸術公園	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業	
内 定 額 (総 額)	18,745	(千円)
	公 演 事 業	17,751 (千円)
	人 材 養 成 事 業	994 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	SCOTサマー・ シーズン2020	2020年8月28日 ～9月6日	新作『世界の果てからこんにちはⅡ』『世界の果てからこんにちはⅡ(屋内版)』構成演出：鈴木忠志、「スズキ・トレーニング・メソッド」公開	目標値	2,190
		富山県利賀芸術公園		実績値	861※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	高校生夏期演劇講習会	2020年8月予定 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により実施することができなかった	目標値	100
		富山県利賀芸術公園		実績値	—※
2	利賀インター・ゼミ 2020	2020年9月4日～6日	<ul style="list-style-type: none"> ・研究コース：「コロナ禍における文化政策」をテーマに討論会、研究発表。 ・実践コース：新型コロナウイルス感染症の影響により中止 	目標値	50
		富山県利賀芸術公園		実績値	16※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>世界的な新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた国内外の芸術家が利賀に滞在し、共同作業により作品を創造するプログラムや、海外からの観客の受け入れを実施することはできなかった。</p> <p>しかし、集団で行う舞台芸術活動が世界的に停止を余儀なくされた中でも、自然に囲まれた利賀では通常どおりの稽古を行うことができた。また、野外劇場等を活用し、万全の感染拡大防止対策を講じながら、8月28日から9月6日の期間で「SCOTサマー・シーズン2020」を実施することができた。</p> <p>「SCOTサマー・シーズン2020」は、コロナ禍の中でも実現可能な演劇活動の成功例として注目を浴び、ここで実施した新型コロナウイルス感染拡大防止対策がその後各地のフェスティバル等でも活用された。</p> <p>今年度、「SCOTウインター・シーズン2020」として12月末にも公演を行った。都会では新型コロナウイルスの新規感染者が増え始めた時期だったが、夏の感染防止対策が万全だったことで観客の信頼を得たため、全国からの観客を受け入れることができた。</p> <p>観客からは、「今年は、観劇はできないだろうとあきらめていたが、利賀に来ることができ、やっと夏がきたと感じられた。開催してくれてありがとう」という感謝の声が多く聞かれた。利賀では“密”の心配がなく日頃の自粛生活から解放される時間を提供できたことで、次年度以降も継続的な集客を期待できると考えられる。</p> <p>また、コロナ禍のため来日できなかった海外の演劇人や観客のために、上演作品を収録・編集し、英語字幕をつけて配信したことにより、大きな反響があり、コロナ禍収束後の海外からの観客の増加が見込まれる。</p> <p>利賀村は現在深刻な高齢化・過疎化の問題を抱えており、滞在アーティストや観客のための宿泊場所、食事、交通手段の整備・確保が大きな問題となっている。フェスティバル開催期間中に、過不足なく整備・供給できるように周辺地域や関係機関と緊密な協力体制を築いていく。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>コロナ禍の中で他のイベントが次々と中止や延期を余儀なくされる中、「SCOTサマー・シーズン」を開催することを決め実行したことは、世界中の演劇人や観客に勇気をあたえることができた。</p> <p>2013年から「SCOTサマー・シーズン」では入場料金を設定せず、観客には「SCOT倶楽部」の会友として登録してもらい、ひとりひとりに支援金額を決めてもらう“お志制度”を実施してきた。コロナ禍でも「SCOT倶楽部」登録希望者は増え、現在約7,550名にまで達している。会友の方々からは、「開催の英断に心から拍手を送りたいです」「希望を与えてもらえるような、素晴らしい舞台を期待しています」「苦しいときですが、芸術の力がますます必要です」「コロナに負けず、頑張ってください！」などの応援メッセージが多数寄せられた。</p> <p>開催期間中の飲食スペース「グルメ館」や観劇者のための特設宿泊施設「テント村」を小規模ではあるが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を万全にして運営した。昨年度のシアター・オリムピックスに協力し、利賀の魅力を知ったことで移住した30代の若者が中心となり運営してくれた。</p> <p>助成があったことで、利賀地域以外からの若者を運営スタッフとして招くことができ、その人たちが利賀の魅力を発見し、徐々にではあるが移住者が増えていっている。</p> <p>利賀インター・ゼミを継続することで、地域の文化関係者とのネットワークが構築されている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

<公演事業>

入場率 95%を目指す。 →95%を達成。(入場者数 861 人/入場定員 910 人)

海外からの入場者数を 15%にする。→新型コロナウイルス感染症の影響で、海外からの観客の受入ができなかった。

対象公演数	入場者数/入場定員*	入場率	海外からの観客数(割合)
3 作品 5 公演	861 人/910 人	95%	0 人 (0%)

(* 新型コロナウイルス感染症の影響により入場定員は劇場の設定人数の半数とした。)

新型コロナウイルス感染症の影響で、入場定員をそれぞれの劇場の設定人数の半分にして実施したが、全体の入場者数が動員目標の 95%を上回ることができた。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、県外より県内からの観客数が多かった。(例年は、県外の観客が約 7 割ほどである。)

<人材養成事業>

高校生夏期演劇講習会

目標参加人数 100 人 →新型コロナウイルス感染症の影響で、実施することができなかった。

利賀インター・ゼミ

目標参加人数 50 人

→ Aコース「研究コース」参加者：全国 3 大学 14 人

Bコース「実践コース」参加者：2 人(富山大学のみ) 合計 16 人

新型コロナウイルス感染症の影響により実践コースのワークショップを実施することができなかったため、目標には届かなかった。

研究コースは、『コロナ禍における文化政策』のテーマで研究発表をし、それについての討論を行った。「SCOTサマー・シーズン」の舞台観劇と鈴木忠志氏と観客とのトークの聴講もプログラムに含まれており、芸術文化がもたらす地域への影響や実際の運営など、実例をもとに文化政策について論じられる場となっている。

特に今年度は、新型コロナウイルス感染症が舞台芸術に与えた影響についてのアンケート結果を基に討論会を行った。また、学生の研究発表や討論会の様子を撮影し、DVD を作成して参加した大学の教授の研究室や新型コロナウイルス感染症の影響で参加できなかった教授や学生に配布した。

実践コースのワークショップは開催できなかったが、研究コースで作成した DVD を観て意見交換したり、利賀での公演を観劇する機会を設けたりすることで、学生に次年度以降、事業に参加する動機付けをすることができた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

① 事業期間について

新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していた8月～9月の期間にすべての事業を終了することができず、感染拡大の状況をみながら3月まで事業期間を延ばして予定していた事業を実施した。

<公演事業>

花火劇『世界の果てからこんにちは』は毎年、野外劇場で上演するため、快適に鑑賞できる8月下旬から9月上旬の時期に公演事業を開催することが恒例である。

しかし今回は、新型コロナウイルス感染症の影響により、「SCOTサマー・シーズン2020」の期間中は、屋外の劇場しか使用できなかったため1作品しか上演できなかった。

12月末と3月に残りの2作品の上演を行った。冬や春など利賀の他の季節の魅力を知ってもらう機会になった。しかし、1回の来場で利賀の特色ある劇場群を体験したいという観客の要望も多いことから、新型コロナウイルス感染症の流行がおさまれば、例年通り8月下旬～9月上旬に事業を実施したい。

<人材養成事業>

高校生夏期演劇講習会と利賀インター・ゼミの「実践コース」は例年、合宿形式でワークショップ等を行うカリキュラムを組んでいるため、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施することができなかった。

利賀インター・ゼミ「研究コース」は、日本各地の大学から利賀に集まって開催するため、夏休みの期間中であり、「SCOTサマー・シーズン」の開催期間である8月下旬から9月上旬という期間は適切であると考える。

コロナ禍によるオンライン授業など制約が続くなかで、学生たちにとって課題を深化させることが難しかった。しかし、自分の研究テーマ「オンライン空間における演劇の可能性」や「新型コロナとハンセン病とアート～感染症惨禍がもたらした芸術創造～」など、コロナ禍ならではの課題をみつけ発表することができた。

利賀で実際に目の前にいる他大学の教授や学生からの意見やアドバイスを受けることができる場を提供することができた。

② 事業費について

新型コロナウイルス感染症の影響により、海外からの劇団や俳優が来日できなくなったため、そこに充てていた経費を、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に使用した。具体的には、楽屋や劇場の消毒、出演者や観客の手指の消毒の徹底、観客や連絡バス乗車時の検温のためのスタッフの配置、受付や入場の整列時に人と人の間隔が密にならないよう呼びかけるためのスタッフの配置などを行った。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

<公演事業>

今年度は、新型コロナウイルス感染症に打ち勝つとの思いを込め、「今日のニッポンに明日は勝つ！」をメッセージとした新作『世界の果てからこんにちはⅡ』を創作上演した。打ち上げ花火を演出の一部に取り入れた演出は、自然に囲まれた利賀芸術公園の野外劇場でしか実現できない作品である。

また、集団で行う舞台芸術活動が世界的に停止を余儀なくされたなかでも、通常どおりの稽古を行うことができたことが、自然に囲まれた“利賀”という地域の文化拠点の最大の利点であると考えられる。

さらに利賀という“密”とは程遠い過疎地域での上演ということもあり、観客の人々も安心して観劇ができると考えたため、多くの観客が訪れたと考えられる。

<人材養成事業>

高校生夏期演劇講習会は、残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響により、実施することができなかった。

劇団SCOTの俳優による「スズキ・トレーニング・メソッド」の訓練や、合掌造りの劇場を見学するなど、利賀芸術公園でしか体験できないプログラムを組み入れ、地元でこのような演劇活動を行っているということを知ること、高校生のモチベーションが上がっていくと考えるので、コロナ終息後はこの事業を再開させたい。

利賀インター・ゼミは、例年同様、文化政策を学ぶ「研究コース」を実施した。「SCOTサマー・シーズン」開催中に行うことで、観劇や『鈴木忠志トーク』の聴講なども含むことができた。「研究コース」では、講義や討論会を通して、芸術と社会に関する課題に迫った。具体的には、神戸大学による「新型コロナウイルスの影響下における兵庫県内の芸術文化活動に関するアンケート調査」の集計速報を基に、現在芸術団体が置かれている状況と、どのような支援を必要としているかを分析し、参加者が今後の支援のあり方について討論した。

タイムリーな状況にあわせた議論をすることができた。

「実践コース」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、演劇ワークショップは実施できなかったが、「利賀」という演劇の聖地で、行われている演劇を実際に体感してもらうため「鑑賞会」を実施した。

コロナ禍の中でも、自然豊かな過疎地である利賀では創作活動が可能であった。その環境を实际みて感じてもらうことができた。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

<公演事業>

劇団SCOTは、40年以上にわたって利賀芸術公園を本拠地に創造活動を行ってきた。集団芸術にとって理想的な環境において生まれた数々の作品は、国際的に高い評価を得てきた。利賀村（現南砺市）、富山県、富山県文化振興財団は、その基盤となる環境整備を長い期間かけて鈴木忠志氏と協働で行ってきた。その成果は過疎地利賀村の住民の誇りとなり、大きな影響を与え、毎冬行われるそば祭りなど住民自らが立ち上げたイベントの原動力になっている。

今回の「SCOTサマー・シーズン2020」では、コロナ禍であったため少人数となったが、地元民を対象とした「舞台芸術鑑賞会」を実施した。参加者からは、「利賀での演劇を観ることができて、コロナ禍で沈んでいた気持ちが吹き飛び、元気をもらえた」や、「利賀の演劇を観ないと夏が終わらない。コロナ禍で自粛ばかりの中で実施してもらえて嬉しい」などという意見があり、地域の文化として根付いている。

<人材養成事業>

今回、「高校生夏期演劇講習会」は、実施できなかったが、共催者である富山県高等学校演劇研究協議会（高文連演劇専門部）の事務局の先生から、「例年8月～9月に富山県内を4ブロックに分けて高校生の演劇大会を実施しているが、今年は8月の演劇講習会がなかったために、どの学校も自分たちの内輪だけで完結してしまっている感じだった。昨年までなら、8月の合宿形式の講習会に参加することで、他の学校の生徒と触れ合い、互いにアイデアを出しながら作品を作り上げることで自分たちと違う考えに気づき、より深い作品に仕上げて大会で発表することができていたように思う。来年度はぜひ実施したい」という意見が寄せられた。

利賀インター・ゼミは富山大学と連携して行っている企画であり、「研究コース」には富山大学をはじめ、神戸大学、九州大学から文化政策に関わる教授や大学院生が参加し、『コロナ禍における文化政策』をテーマに活発な討論を行った。この討論会や研究発表の様子を撮影したDVDを富山大学の演劇サークルに所属している学生たちにも見てもらうことで、新型コロナウイルス感染症が芸術文化活動に与える影響と今後必要な支援について知ることができ、そこから自分たちのできることなどを考えていく機会となった。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

<公演事業>

「演劇の聖地：利賀」という国際的共同作業が成立する“場”や、独自の俳優訓練法を創り出した鈴木忠志氏の演劇思想を深く理解するために、鈴木氏の本拠地である利賀で「スズキ・トレーニング・メソッド」のプログラムに参加したいという海外からの要望はこれまでも多かったが、「シアター・オリンピックス」終了後は、実際の創造環境を目の当たりにした参加団体の俳優や観客として訪れた海外の演劇人からの問い合わせが増えていた。しかし、今年は、コロナ禍のため海外からの参加者を受け入れることができなかった。そこで、東京などの都市部でコロナ禍により活動が制限されていた若手の演劇人や学生を対象に、初めて「日本語コース」を開催した。それが日本国内で「スズキ・トレーニング・メソッド」を受け継いでいく次世代を育てる第一歩となった。

また、コロナ禍でも通常通りに訓練・稽古などの芸術活動を行えた利賀の創造拠点としての環境が注目を浴び、地方に拠点をもちたいという若い演劇人が増えてきた。芸術集団SCOTと一体となって活動を展開してきた利賀芸術公園のあり方がますます重要となってきたと認識している。

<人材養成事業>

今回は、実施できなかったが高校生夏期演劇講習会を継続して行ってきたことで、このプログラムに参加した高校生が演劇専門大学に進学し、スズキ・トレーニング・メソッド・プログラムの日本語コースに参加するなど、長年行ってきた人材養成事業がつながり、相乗効果を生んでいる。

利賀インター・ゼミは、継続することで関係者間の連帯を強め、ディスカッションを経て年々内容が深化している。参加した学生が、その後も継続して利賀芸術公園を訪れるようになることも多い。